

## いよいよ新学期がスタートしました

学校の教職員も4月1日に異動があり、新しい体制で新学期を迎えています。昨年度同様、保護者の方や地域の方とも協力しながらより地域に開かれた活気ある学校を創っていきたく思いますので、宜しくお願いします。

さて、その第一歩として、PTA 総会等も紙面開催になり、保護者の皆様にお話しする機会もありませんので、今年度に岩園小学校がめざす子ども像や学校像を再度確認いただき、同じ方向で子ども達の成長を見守っていきたくと思います。学校と家庭がしっかりコミュニケーションを取りながら、子ども達の気持ちに寄り添い、問題解決に向けて取り組んでいきたくと思います。

以下「めざす子ども像」「めざす学校像」「学校教育目標」これが、岩園小学校の教育のめざす目標になります。これらを達成するためにカリキュラムの編成や授業の在り方を検討することや自尊感情や他者理解の心を育てる手立てをおこなっていきます。

**学校教育目標** 学び合い 支え合い 高め合い

～未来を切り拓く生きる力の育成～

### めざす子ども像

- 見通しをもって自ら考えて行動できる子
- みんなと助け合うことができる子
- 凡事徹底できる子

### めざす学校像

- 子どもの主体的な学びを大切にす  
る学校
- 一人ひとりに居場所のある学校
- 規律のある学校

## ★ 指導の重点、努力目標

### (1) すべての児童に「確かな学力」が身に付くよう教育活動を展開する。

- ①教師は、児童の「主体的に学ぶ力」の育成を目指し、全教科・領域を通して主体的・対話的な学びのある授業づくりを追求する。
- ②児童の基礎的・基本的な知識・技能の定着、汎用的スキルの習得のために個に応じた多様な指導方法の工夫改善を図る。
- ③児童の望ましい読書習慣の形成を図るため、読書タイムの設定、「家読」の実施、学校図書館機能のさらなる充実、読書ノートを活用、学校図書館を活用した学習活動、読書スタンプラリーなど、教育活動全体を通じた読書指導・活動を展開する。

### (2) 特色ある学校づくりに努め、総合的・発展的な授業を創造する。

- ①人の生き方や考え方に触れる「キャリア教育」を推進する。
- ②自身で新たな課題を見つけ、タブレットも必要に応じて活用しながら主体的に取り組もうとする授業を創造する。
- ③総合的な学習の時間や生活科のカリキュラムの充実に努めるとともに、地域の人材を活用した外部講師を招聘するなど、地域に根差した教育を進める。

### (3) ICT 機器の活用を図るとともに、情報モラルの育成に努める。

- ①芦屋市情報活用能力体系表を基に、情報活用能力を高めるためのカリキュラムを各学年の児童の実態や教科の学習内容に応じて再編成する。
- ②市内タブレット活用実践事例集を参考にして、授業の中でタブレットが有効な場面においては、活用した授業づくりに努める。
- ③情報モラルカリキュラムを基に系統立てた指導の徹底を図るとともに、家庭・保護者への協力依頼・啓発に努める。
- ④オンライン授業については、必要に応じて内容や方法を精査して実施する。

### (4) 道徳教育の充実を図り、人権感覚豊かな児童の育成を図る。

- ①児童の実態や指導上の課題を踏まえ、取り組むべき重点を明確にし、教育課程の全領域で道徳教育の充実を図る。
- ②道徳の授業では、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を培い、健全な自尊感情を育むような授業を追究する。
- ③温かい心の通い合う学級、学年、学校づくりを進めるための特別活動の内容を創造するとともに、その基礎となる意図的・計画的な学級活動の実践の深化を図る。いじめ防止基本方針を保護者や教職員に周知し、未然防止、早期発見、早期対応に努める。いじめの兆候を発見した場合には、保護者と連携をとりながら迅速かつ組織的に対応する。

### (5) 特別支援教育における推進体制の整備を図り、特別支援教育の充実に努める。

- ①校内委員会を設置し、特別支援教育コーディネーターを中軸として、全校で取組を推進する。
- ②一人一人の教育的ニーズ、保護者の願いに応じた指導体制の充実を図り、関係機関との連携を進めながら、合理的配慮にもとづく支援を行う。
- ③個別の支援・指導計画の充実と指導方法の工夫改善に努める。
- ④インクルーシブ教育について児童と保護者への理解を図る。

### (6) 教職員の専門性と指導力の向上を目指し、研修に努める。

- ①研修・研究活動を通じて人間関係づくりに努めるとともに、学級の特徴は大切にしながら、実践内容の平準化につながるよう、学年内の打合せを密に行い、共通認識を確かなものにする。
- ②講師招聘による研修会や授業研究会を計画的に開催する。
- ③先進校や市内各学校における研究会などに積極的に参加するように努め、ミニ研修

会等による校内研修の充実を図る。また、お互いの授業や学級経営の交流ができるようにする。

- ④児童理解を深めるとともに、組織的な対応ができるようにSC（スクールカウンセラー）やSSW（スクールソーシャルワーカー）をはじめ、関係機関と連携し適切な指導につなげられるようにしていく。

**(7) 危機管理に関する意識の涵養と体制の整備を図る。**

- ①学校防災・学校防犯の担当を中心に研修を計画・実施し、教職員の危機管理意識を高め、児童の安全を最優先にした防災・防犯訓練を定期的実施するとともに、土曜参観日に保護者への引き渡し訓練を実施する。
- ②各種危機管理マニュアル（防災・不審者対応・異物混入・感染症対策等）の確認・見直しを行うとともに、全教職員が共通した対応を行うよう努める。
- ③登下校の安全管理は、保護者の責任において行われるものではあるが、地域住民や関係機関にも協力や支援を呼びかけて、児童が安全な登下校ができるように努める。
- ④防災訓練を実施し、コミスクや自治会、関係機関とも連携して児童や保護者、地域住民の防災意識を高める。

**(8) 保護者や地域から信頼され愛される、開かれた学校づくりを進める。**

- ①学校教育活動全体で保護者や地域住民の更なる教育力を発掘し、その活用を積極的に図る。
- ②学校の姿を地域や保護者に公開することで教育活動への理解と協力を求めるため、オープンスクールを実施するとともに、学校便りやホームページを通して、学校からの情報発信を積極的に進める。
- ③学校運営改善に資するため、保護者、児童、教職員への学校評価アンケートをもとに、学校関係者評価を実施する。

特に、今年度も(5)で示している通り、人権教育の重点事項として「特別支援教育・インクルーシブ教育」の充実を図ります。昨年の新1年生入学説明会でも岩園小学校が取り組んでいる特別支援教育やインクルーシブ教育について話をしています。

その子の困っていることや特性を周りが理解して、本人も周りの児童も共に成長できる場がたくさん見られるようになればと思います。学校では、教師が授業や学校生活の中で、様々な場面において折に触れながらインクルーシブ教育の意義や一緒に学ぶことの意味について発達段階に応じて推進していきます。ご家庭でもこの4月新しい学級になったことをきっかけに、友達や人権のことについて話し合う時間をもっただけだと幸いです。学級懇談会で担任よりこのことについてはお話しさせていただきます。

**「発達障がい」とは**

発達障がいは、広汎性発達障害(自閉症など)、学習障害、注意欠陥多動性障害など、「脳機能の発達に関係する障がい」です。発達障がいのある人は、コミュニケーションや対人関係を作ることが苦手です。また、その行動や態度が「自分勝手」とか「困った人」と誤解され、敬遠されることも少なくありません。それが、親のしつけや教育の問題ではなく、脳機能の障がいによるものと理解すれば、周りの方々の接し方も変わってくるのではないのでしょうか。

発達障がいのある人たちが個々の能力を伸ばし、社会の中で自立していくためには、子どもたちからの「気づき」と「適切なサポート」そして何よりも発達障がいに対する私たち一人ひとりの理解が必要です。発達障がいがあるといっても、障がいの種類や程度によって違いますし、年齢や性格などによっても、一人ひとり違いますので、生活の中で困難なこと、苦手なことも一人ひとり違います。そのため、「一人ひとりの特徴に応じて配慮をしたり、支援したりしていくこと」が重要です。



**発達障がいの人に接するときの配慮について**

- ▶他の人が簡単にできることでも、うまくできない  
→努力している点、うまくいっている点を褒めたうえで、できなかったところは、どのようにやればもっと良くなるかを肯定的・具体的に伝えてみてください。
- ▶言葉で言われても理解しづらい  
→自閉症など広汎性発達障害の特性をもっている人の多くは、言葉で言われるよりも、目で見て分かる情報の方が理解しやすいと言われていますので、写真や絵を添えて説明すると理解しやすくなります。
- ▶あいまいな表現が苦手  
→言葉で説明するときは、短い文で一つずつ順を追って具体的に説明すると理解しやすくなります。
- ▶人混みや大きな音が苦手  
→自閉症の人たちの中には人混みや大きな音、光などの刺激を苦手とする人が多くいます。そのような刺激による不快感を大きくしないよう、安心できる環境を作ってください。

発達障がいは、ほんの一例です。他にも様々な障がいのある児童もいます。診断が出ていなくても日常に問題を抱えている児童もいます。同じ空間にいることでトラブルもあると思いますが、それらをどう乗り越えていくのかを大人も子どもも一緒になって考えることで、お互いの成長や他者・多様性への理解につながっていきます。

また、障がいだけでなくジェンダーやLGBTQ+に関する偏見の解消や外国にルーツがある児童等がアイデンティティを確立できるようにサポートしていくことも人権教育には欠かせません。当該家庭や周りの保護者の方ともコミュニケーションをとりながら推進していきたいと思っています。今後ともご理解・ご協力よろしくお願い致します。